

中池見湿地

(なかいけみしつち)

位置：北緯35度39分、東経136度05分／標高：45m／面積：87ha／湿地のタイプ：低層湿原、水田／保護の制度：国定公園特別地域／所在地：福井県敦賀市／登録：2012年7月／国際登録基準：1、2、3

湿地のタイプ：低層湿原、水田



南東から見た中池見湿地



春の中池見湿地



デンジソウ



伝統的な水路管理の江掘り

湿地の概要：

中池見湿地は、福井県南西部の敦賀湾に面している敦賀市のほぼ中央にあり、周辺を天筒山、中山、深山の三山に囲まれた低層湿原である。過去の活発な断層運動と地殻変動により水系がせき止められ、袋状となった谷に泥炭が堆積してできあがった「袋状埋積谷」という独特の地形が大きな特徴で、湿原中央部には地下約40mにおよぶ、ほぼ連続した泥炭層が堆積している。この泥炭から、過去約5万年の気候変動、植生変化を分析することができる。

また、江戸時代にはじまったといわれる低層湿原の新田開発により、湿地には大小の水路が張りめぐらされ、水田と水たまりとがモザイク状に組み合わさることにより、多様な水辺環境がつけられ、そうした変化に富んだ環境が多様な植物相や動物相を育てている。

多様な水生生物の宝庫：

中池見湿地は、上記のように泥炭層の厚い湿地であるため、「深田」というぬかるみが深い湿地となった。「深田」では機械化はなかなか進まず、伝統的な農業形態による水田耕作が続けられていた。そのため、かつては日本の中山間の農業地帯でどこにでも見られていた植物や動物の多くが絶滅危惧種となっている現在でも、中池見湿地ではミズニラ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサといっ

た貴重な水生植物が育まれている。

トンボ類では、キイロサナエ、サラサヤンマなど、70種を超える種が記録されており、日本国内に生息しているトンボ類のうち約4割が、中池見湿地で確認されている。また、ナカイケミヒメテントウは、中池見湿地で発見されたテントウムシで、中池見湿地が福井県内唯一の生息地である。

人々が集う「人と自然のふれあいの里」：

現在、中池見湿地は、「人と自然のふれあいの里」として、自然と触れ合う活動の拠点として活用されており、花のシーズンとなる春と秋をはじめ、年間約3万人もの人々が訪れている。周辺のさまざまな自然情報を提供するビジターセンターや木道、案内看板なども整備されており、こうした施設を活かして、市民向けの観察会や生きもの調査なども実施されている。

保全のための活動：

多様な生きものを育む場としての中池見湿地を維持するため、管理行為は不可欠ではあるが、湿地のほとんどは耕作放棄され、その担い手がないのが現状である。そのため、地元の環境保全体や敦賀市などが協働し、こうした活動を行っている。また、地域の学校が環境教育の場として中池見湿地を利用しつつ、外来種の進入状況調査や駆除といった活動を進めている。

そのほか、「江掘り」と呼ばれる水路の

底にたまった植物や泥などをさらい、水路の流れをよくする浚渫作業など、伝統的な水田管理方法による中池見湿地の管理も行われており、さらに、こうした慣行を次世代につなげていく試みもなされている。

●関係自治体

敦賀市役所 Tel: 0770-22-8121

